

2021. 2. 28～3. 1 阿弥陀岳北稜山行報告書

記 柴田吉暁



計画書整理 No.

期 間：2021年 2月 28日（日）～ 3月 1日（月）

種 別：個人

山 域：八ヶ岳（阿弥陀岳）

参 加 者：河本、柴田

コースタイム：2月28日 11:53 赤岳山荘→ 14:34 行者小屋

3月1日 5:35 行者小屋→ 6:26 阿弥陀北陵取付→ 8:34 阿弥陀岳
→ 9:38 中岳の科尔→ 10:17 行者小屋→ 12:58 赤岳山荘

記録

1日目行者小屋で幕を張り、2日目阿弥陀岳へアタックし下山する一泊二日の山行とした。天候に恵まれ、全ての行程を予定通り行うことが出来た。

以下、詳細

28日の朝、河本さんに車で迎えに来ていただき、赤岳山荘へ向かった。道路も混雑しておらず、スムーズに向かうことが出来た。八ヶ岳山荘から赤岳山荘までの道は路面凍結で車で入れるか心配していたが、昼頃の到着で気温が上昇していたこともあり、チェーンを履かなくても通行することが出来た。八ヶ岳山荘、赤岳山荘共に車が8.9

割停まっいて、赤岳山荘ではアイスクライミングをしている人もおり賑わいを見せていた。

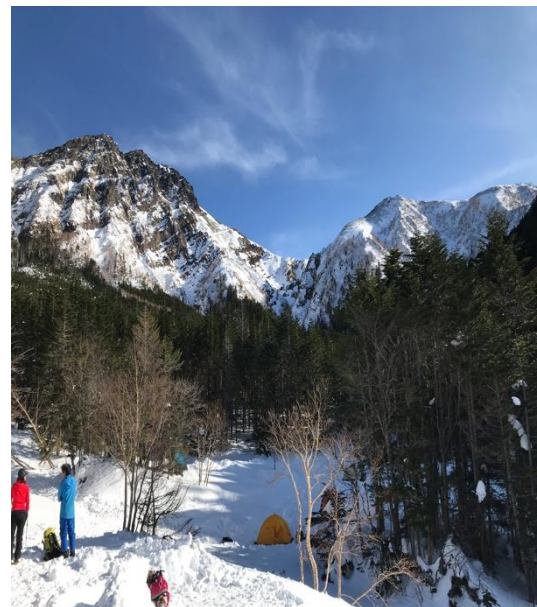


八ヶ岳山荘から赤岳山荘までの路面

赤岳山荘から行者小屋までの道はトレースもしっかりついていて、凍結している箇所が多く、チェーンアイゼンなどを装着した方が歩きやすく感じた。その間 20 人ほどはすれ違っただろうか、日曜日で高気圧に覆われた好天で多くの方が山に入っていたのだと思われた。14 時すぎ行者小屋に到着し、テントを張って翌日の準備をした後、夕食などをとり 19:30 には就寝。



赤岳山荘から行者小屋まで(南沢)



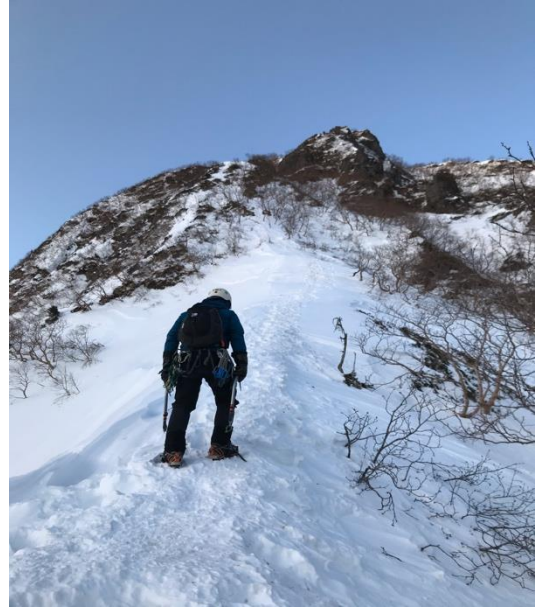
行者小屋から赤岳・阿弥陀岳

29 日早朝 3:30 に起床し、朝食を取った後、身支度を整えハーネス・アイゼンを装着して 5:30 ごろ行者小屋を出発。10 分程で文三郎尾根と中岳沢の分岐に到着し、そこから中岳沢方面へ数メートル進むと右側に北陵へ向かうトレースがしっかりとついていた。トレースに従い樹林帯を進むと 15 分ほどで森林限界を超え、展望が良く

なる。(ジャンクションピーク) 阿弥陀へ雪稜を進んでいくと 30 分程で第一岩稜に到着。取り付きは岩の左側にハーケンやピカピカのペツルが打ってあり雪に埋もれておらず、ラインが明確だった。



分岐から右に入った樹林帯



ジャンクションピークから取付まで

終了点まで 3 ピッチに分けてつるべで登った。1 ピッチ目は取付から岩を一段登って先のビレイポイントまで、傾斜はあるが、ホールドが豊富でアンカーもあり登りやすかった。2 ピッチ目は第二岩稜の取り付きのビレイポイントまで、1 ピッチ目よりも優しく、ピナクルやハーケンに支点をとって進んだ。3 ピッチ目もピナクルに支点をとり上まで上がるとナイブリッジになっていて、そこを抜けると灌木が雪から顔を出していて、そこを終了点とした。



第一岩稜取付

終了点から 15 分ほど短い雪稜を登ると阿弥陀岳頂上に着いた。撮影を終え、来た道を少し戻って赤岳方面へ。ここから中岳のコルまでは傾斜があり、キックステップ

で丁寧の下った。梯子が出ていたり隠れていたりして難しかった。雪崩が多いという中岳沢は小走りで下山。途中で滑落停止の訓練をして行者小屋まで帰った。



終了点からの雪稜

テントなどの撤収をして11:30 ごろ下山開始、前日からの好天で雪が溶け、地面が剥き出しになっている箇所もあったが、滑りやすそうな氷が多かったため、アイゼンを装着した方が良さそうだった。13 時ごろ赤岳山荘に到着し、帰路についた。

感想

今回は、初めての冬季バリエーションルート、雪山テント泊と不安な事も多かったですが、河本さんのフォローのおかげで楽しく登る事が出来ました。また、終始好天に恵まれ、快晴無風で気温も高くこれ以上無いほどのコンディションだったのではないかと思います。本当に楽しい山行でした、河本さんありがとうございました。この場をお借りして感謝申し上げます。